

## まちなか工房を拠点とする地域と連携した実践的都市計画教育の試行

建築学科・まちなか工房 両角光男

### 1. 背景と目的

まちなか工房は、熊本市が中心市街地活性化協議会（以下、協議会）を組織して取り組んでいる中心市街地活性化基本計画実践に向け、各種調査提案などの作業協力を要請された。実践的都市計画研究教育を試行する絶好の機会であり、地域連携型研究としても多くの成果が期待できることから、工房を拠点に活動する建築学科学生の卒業研究等、研究教育の一環として取り組むと共に、先進都市の訪問調査など研究内容を充実させるため、本事業の経費的支援を申請した。

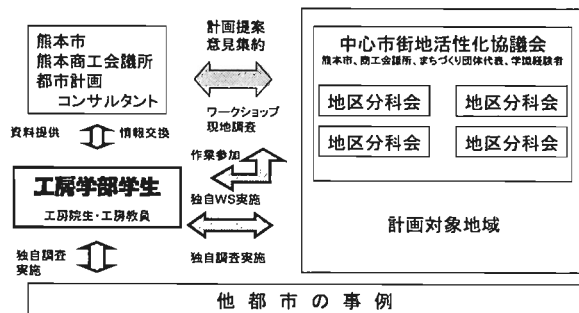


図-1 工房学生と学外組織との関係

### 2. 上乃裏地区の通りの公共空間整備プロジェクト

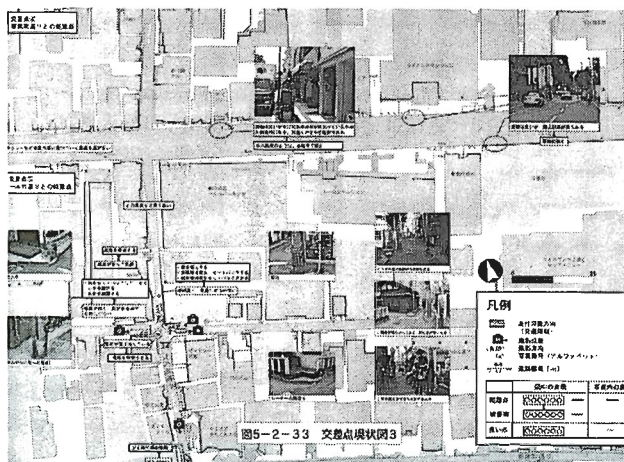


図-2 上乃裏通の公共空間現状調査図（部分）

上通アーケード裏には、個性的な店舗が細街路に沿って連続しており、熊本市中心部の魅力的なウィンドウショッピングエリアとして知られている。ところが、上乃裏通りを始め、地区内には幅員が3mを切るような道路区間が多数ある上、近年は自動車交通量増加に

より、回遊時の安全性が著しく阻害されている。

熊本市から、通りの公共空間整備の地元素案をまとめて協議会に提案するようアドバイスを受け、上通アーケードと国道3号線に挟まれた地区を対象に、地区内の公共空間の現状を詳細調査し、また、地元ヒアリングやワークショップを実施しながら、通りの公共空間整備の地元素案作成に取り組んだ。



図-3 地元ヒアリング、協議会報告  
金沢市先進事例調査などの作業風景

### 3. 作業経過

学部4年生1名と修士2年生が共同作業し、関連テーマの他の4年生が調査などの現地作業に協力した。

表-1 プロジェクトの作業経過

5月~6月	研究準備
7月~8月	現地調査・地元ヒアリング 地元ワークショップ開催
9月~10月	現地調査・ヒアリング（地元・市）
10月	まちづくり先進都市（金沢）事例見学調査 整備素案のヒアリング（地元、警察）
11月	工房企画：金沢・岡山・熊本、 城下町三都市街づくりシンポジウムの運営参加 素案第二案作成・中心市街地活性化協議会部会報告 卒業論文とりまとめ
12月	卒業論文発表、学会講演発表投稿
1月~2月	（卒業設計のため作業休止、修士研究に引き継ぐ）
3月	学会講演発表、 地元ワークショップ、中心市街地活性化協議会報告

注：太字は学外組織との情報交換機会を示す。

### 4. 成果と今後の課題

現地観察調査と地元ヒアリングを踏まえた詳細な公共空間平面図と課題点検図や改善提案は、熊本市の担当課からも、事業検討資料として高く評価された。また合意形成の難しさを体感すると共に、先進都市との交流を通して、粘り強い取り組みの重要性確信したと述べており、地域と連携した作業効果は大きかった。